

東京大学 理系

—Part 1—

かじ いぶき
鍛冶 維吹さん(理I・駒場東邦)

かつら ひろゆき
桂 宏行さん(理[推薦入試]・慶應義塾)

かとう しゅうじ
加藤 修慈さん(理II・駒場東邦)

こ もり ゆうま
小森 優真さん(理II・開成)

さえぎ ゆうき
佐伯 祐紀さん(理III・開成)

まつざき しおん
松崎 紫音さん(理I・女子学院)

グノでは授業中に演習をして、それがすぐに解説されるので、解説に集中できるし、「なるほど!」と深く納得できて記憶にも残ります。定着度の高い授業システムだと思います。

加藤 修慈さん(理II・駒場東邦)

目次

- 入塾のきっかけ P16
- グノーブルの評判 P17
- グノーブルの英語 P17
- 英語の勉強法 P18
- 英語が楽しくなったきっかけ P19
- グノーブルの数学 P19
- グノーブルの国語 P20
- 東大を志望した理由 P20
- 先生とのエピソード P21
- グノーブルのシステム P22
- 後輩へのメッセージ P22

※●は、この PDF フルバージョンのみの掲載項目

入塾のきっかけ

佐伯:中3の夏に「そろそろ英語をやった方がいいかな」と思い、英語でグノに入塾しました。知っている先輩がグノの広告に載っていて、以前からグノには好感を持っていました。通いやすい立地条件も良かったです。

鍛冶:僕も英語でグノに入りました。高1の頃の僕は英語の成績が奮いませんでした。自分でどうにかできそうにもなくて、英語の塾について部活の先輩に話を聞いてみました。「グノーブルがいいよ」とその先輩が教えてくださったので講習を受けてみました。授業が楽しかったのも、他塾と比べるまでもなくグノに入塾しました。

桂:東大に推薦入試で合格するとは思っていなかったのも、二次の勉強のために高1から英語の勉強をしようと思って入りました。僕の学校は進学校じゃないので塾に関してはほとんど情報がなかったのですが、たまたま、医学部を目指している友達がグノに通っていたんです。

松崎:私が中3のとき、両親がいくつかの塾の説明会に出席しました。そのなかで「一番活気があった」ということで、グノを勧めてくれたので、私は春期講習を受講しました。そうしたら、授業がとても面白かったのです。先生がとても明るく授業をされていたのが印象的で、入塾の決め手となりました。

加藤:僕は最初、塾に入るのが嫌でした。学校の勉強だけで十分だと思っていましたが、中3の終わり頃には、親が塾についていろいろ調べてきて、いくつかの塾の中から「自分で選びなさい」とアドバイスをしてくれました。サッカー部に所属していたので、振替もできて融通がきくという理由でグノを選んで講習に来てみたら、先生がやる気に満ちていたのに惹かれてそのまま入塾しました。結局、他の塾には体験すら行きませんでした。



加藤 修慈さん(理II・駒場東邦)



鍛冶 維吹さん(理I・駒場東邦)

小森:中学進学時に英語だけでも塾に通わせようという親の方針がきっかけでした。グノの英語の評判を聞いて、僕をスタートダッシュ講座*に参加させたのです。英語だけでなく数学もとても楽しかったので、僕は「数学も通いたい」と言って、そのまま英語と数学でグノに通うことになりました。

※新中1生対象の講習（2～3月に開講）。

グノーブルの評判

松崎:学校の英語の授業は成績別でクラス分けされますが、一番上のクラスはグノ生が多かったです。グノの先生や授業の話がよく話題になって、グノ生たちで盛り上がっていました。

小森:僕は塾の評判を全然気にしていませんでしたが、開成ではグノの英語に通っている人は多かったです。

佐伯:グノに通っている僕の友達の中には、他塾の英語講習を受けてみて、「全然ダメだった。やっぱりグノがいい」と言っている人がいました。

鍛冶:駒東の校内模試では、グノに通っている人たちがいつも英語の上位を占めていました。周りのみんなが「グノーブルはすごい」と感心するくらいグノの評判は高かったですね。

加藤:グノに通う駒東生が多かったので居心地も良かったし、みんな成績も伸びていたの、その評判でまた駒東生が増えていった感じです。

グノーブルの英語

桂:カリキュラムがよく組まれていると思います。高1・2で文法を固めて、高3で完成度を高めていくというスタンスがいいですね。最後は本当に読解力が鍛えられて読むスピードも速くなりました。

小森:中学に入るまで英語に触れたことがなくて、ローマ字読みしかできなかったくらいです。そんな僕でも、グノの英語の授業でどんどん英語が楽しくなって自信もつきました。

グノの英語教材は、受験問題の英文というよりも、読んで興味を持てる英文を先生が大量に用意してくださるので、毎回の授業が楽しみです。英語の授業を通して教養も高められたし、世の中で今起っている出来事を知ることでもできました。しかも、和訳や文法解説以上に、内容に関して踏み込んだ説明が聞けるので、いつも先生の話に引き込まれていました。古代エジプトの神々の話や、その頃の宇宙観とか、常識的な英語の授業をはるかに超える奥行きがありました。

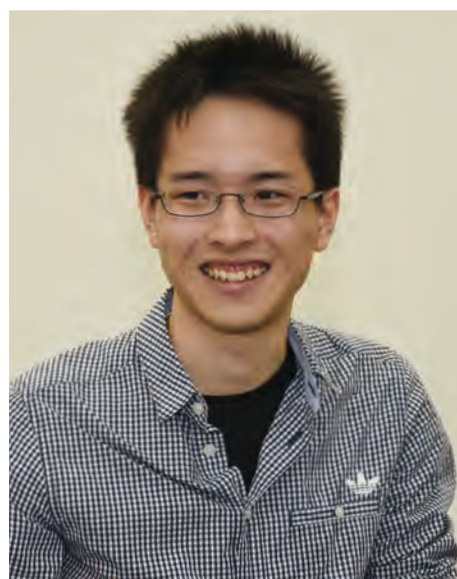
佐伯:先週のニュースや世界の重大事が教材になっているのは魅力でした。たいいてい塾だと数か月分の教材が先に渡されて、その内容は過去の受験問題だと思います。グノは毎回の授業でテキストとプリントがもらえるので、活きが違います。

松崎:私は、高1の夏にスケジュールが合わなくて他塾の英語を受けたことがあって、そのとき、授業のスピードがとても遅くて集中力が続きませんでした。グノの英語は速くて快適です。やる気に溢れた先生の熱意が伝わってくるので、最後まで集中できます。

鍛冶:僕は英作文が苦手で、高3になっても文法ミスばかりしていましたが、授業の演習でも、宿題でも英作文の機会があって、それをすぐに添削してもらえたおかげでミスを確実に減らしました。振り返ってみると大量の英文を書いて添削してもらえたのは、結構かけがえのない経験だったと思います。

自由英作文もずいぶん早い時期から書いて添削してもらえたので、東大受験を考えても他塾の人たちより有利だったと思うし、この経験は今後にも生きてくると思います。

加藤:グノらしさといえば単語の覚え方です。たとえば先生がチョークを2本持って、「これが“compare”だよ」って教えてくれます。“com”が「いっしょ」で、“par”が「同等」



桂 宏行さん(理Ⅲ推薦入試・慶應義塾)



小森 優真さん(理Ⅱ・開成)

だから、「同等のものを並べてみる」ことが「比較する」です。

それに“par”は“pair”「ペア」とか、“peer”「仲間、同級生」の語源ですね。こうやって語源から広がりが見えてくる授業がグノらしさだと思います。

市販の単語帳を使って単語を暗記すると、覚えたと思ってすぐにも忘れます。単語を語源から説明されると、頭に入りやすい上に忘れにくいです。

それから、他塾では予習をして授業ではその解説だと思いが、グノでは授業中に演習をして、それがすぐに解説されるので、解説に集中できるし、「なるほど!」と深く納得できて記憶にも残ります。定着度の高い授業システムだと思います。

英語の勉強法

小森:おかげ様で東大の入試で TLP (トライリンガル・プログラム) ※に選ばれるくらいの英語力が身につきましたが、英語に関しては、グノの先生のおっしゃる通りに学習しただけです。

※入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生 (上位一割程度) のうち希望者を対象に行われる日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。 (<http://www.cgsc.u-tokyo.ac.jp/tlp/>)

桂:音読がやはり基本です。僕の場合は、高3のときには30分を1単位として、その週に配られた英文を30分間読み続けました。15分くらいで1周を読み切るので、だいたい2周読み切るところを夜の日課にしていました。それで、復習にもなるし、英語力全般が高められたと思います。

鍛冶:音読を続けていると、読解力もちろんアップしますが、リスニングもできるようになります。リスニングでは、当たり前ですけど振り返って聞くことはできません。音読をするときに前からどんどん捉えていくので、英語の語順での解釈力が上がってリスニング力も上がるのだと思います。

音読のときはただ読むのではなくて、前から意味を取っていく意識が大切ですが、授業のときに先生が、英語を区切りながら読んではその解釈してくださるので、そのやり方を参考にするといいと思います。

佐伯:高2の途中あたりから本格的に音読やシャドーイングをやり始めて、しばらく続けていたら、突然聞き取れるようになった経験をしました。それまでは英語の聞き取りは全然できていなかったのが驚きました。

リスニング力が上がるにつれて、読解スピードもぐんと上がりました。音声教材のスピードで練習しているうちに、音声教材に近いスピードで読めるようになった気がしています。

加藤:僕が音読を始めたのは高3の途中からです (笑)。それまでは、ただ読むことに意味があるのかと疑問を持っていました。でも、先生から繰り返し音読効果を聞いているうちに、英語に毎日触れないとダメかもしれないと危機感を抱き始め、半信半疑ながらも音読を続けるようにしました。

確かに音読には効果がありました。直前期には英文をスラスラ読めるようになりまし、東大の過去問でも時間不足を感じることはなくなりました。これを読んでいる後輩の中にも音読の効果に疑問を持っている人はいると思いますが、間違いなく効果があります。

あと、グノで扱った英文の量も大事だったと思います。僕は出遅れていたのでも英語のクラスは最後までa4※でした。それでも、良質な英文をたくさん扱ってもらえたので、本番までにはしっかりと実力がついたのだと思います。

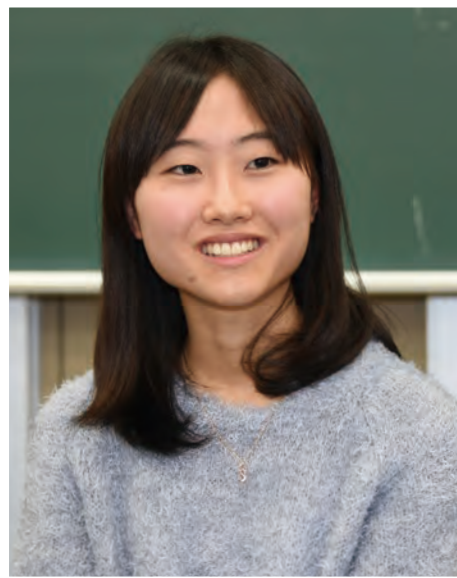
※受験学年の英語は、a (最上位) から、a1、a2、a3、a4、a5の設定でした。

松崎:寝る前の10分間は要約のGSL※を聴くようにしていました。授業で扱った英文の音声だから細かいところまで理解できています。内容を追いかけて耳を傾けているのは楽しかったし、それだけで復習の効果もありましたし、リスニング力の向上に役立ったと思います。

※中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。(Gnoble Sound Laboratory)



佐伯 祐紀さん (理Ⅲ・開成)



松崎 紫音さん (理Ⅰ・女子学院)

英語が楽しくなったきっかけ

桂:中3の頃まで、僕は英語が嫌いでも苦手でしたし、その頃受けた英検も不合格で、自分は英語ができないと思っていました。でも、グノで授業を受けて英語が楽しいものになりました。成績も確かに上がりましたが、英文を読めるようになったことが大きいです。

小森:僕の場合、駅や電車の英語の案内が普通に分かるとして、それから面白さが増して、英語をもっと勉強したいと思いました。

加藤:「謎の記号が並んでいる」という状態からの出発でしたから、解読できるようになった時点で結構嬉しい気持ちを味わっていました。読めて意味が分かる、というのは本当に楽しいです。

こんな状態からスタートした僕は、英語のクラスは $\alpha 4$ で、上のクラスに行くことは正直なところ諦めていました。むしろ、 $\alpha 4$ から東大に入ったら注目されるのではないか、という思いをモチベーションにしていたくらいです。

もちろん不安はありました。だから、「 $\alpha 4$ でも東大レベルに達しますか?」「本番では何点くらいとれますか?」と担当の先生に何度も聞きました。そのたびに、具体的な根拠も示してくれながら、「東大に行けます」と励ましてくださいました。いつも見てくれている先生の言葉を励みにして、自分でできる最大限まで英語の得点をアップさせようと自分を奮い立たせていました。

結果として、英文を読める楽しさも味わえるようになりましたし、東大合格も果たせて、グノを信じてきてとても良かったです。



鍛冶 維吹さん(理I・駒場東邦)

グノーブルの数学

松崎:高1までの数学の授業では、自分で問題を解けたら次の問題に進んでいくというシステムで、自分のペースに合わせて授業を受けられました。できた問題の解説は軽く聞いて、できなかった問題の解説はしっかり聞く、というふうにメリハリのある勉強ができて良かったです。先生が一人ひとりを回って見てくださって、そのときに質問をすることもできたり、先生が課題に気づいたときには指摘もしてもらっていました。

小森:中学の頃から数学が得意だったので、僕はどんどん問題を解いていき、先生も次の難しい問題をどんどんくださいました。問題が解けて先に進めるのが楽しいと感じながら数学の授業を受けていました。

生徒たちも意欲的に取り組めるようになっていましたし、先生もやる気に満ちていて、解説するときも楽しそうなので、教室の中はいつも活気に溢れていました。

その頃には、とにかく「数学は楽しい」という気持ちが味わえて、どんどん問題を解くことで必要な知識や、基礎になる計算力も身についたと思います。

上の学年に進んでからは、より上位の視点を持って戦略を立てていく力を授けていただけて、さらに数学が楽しくなりました。先生からは、戦略をまとめたノートを作るようにとアドバイスを受けていました。ノートが充実していくにつれて、公式の使い方も習熟できて、新しい問題に対処する戦略を立てるのもどんどん楽しくなり、勉強が深いものになりました。

鍛冶:確かに問題を解くときの普遍的な考え方や戦略指導はすごく役立ちました。

普通の数学の授業は、問題ごとに先生が解説する形式ですから、生徒も何となく問題を解き、そのうちに経験が蓄積されていくだけです。そのやり方だと、数学という広い科目の中で自分がどこにいるかも分からず、典型問題ならともかく、応用問題になると、どんな武器を使って攻めればいいのかの目も鍛えられないと思います。

グノの授業で、こういう場当たり的な問題の解き方から、俯瞰的な目を養って戦略的に問題を解くスタンスに変わったのは大きかったです。自分で問題を分析して、どの道具を使って攻めていくのかも自分で考えられるようになりました。

僕の場合、授業で解いた問題について先生に提出する「反省シート」が役立ちま



桂 宏行さん(理[推薦入試]・慶應義塾)

した。最初は、分からなかったところを書けと言われても、「分からなかったのは分からなかったからだ」としか考えられなくて、全然書けませんでした（笑）。自分を客観視する習慣がだんだん身につくと徐々に書けるようになって、自分の言葉で、どこができなかったのかを分析できるようになりました。

また、それを見返しているうちに、自分の失敗の傾向も意識できるようになったし、新しい問題に対する方針を考えるときにも論理的に考えられる力がついて、数学の成績が飛躍的に伸びました。

松崎:先生たちは、私たちの力を伸ばすために、問題選びにも配慮してくれていたのだと思います。授業で扱う問題は考える力が鍛えられる難しいものが多かったです。しかも、私たちが忘れたところにその類題がまた出てきます。知識も考え方もしっかり定着するようになっていたと思います。

英語についてもそうなのですが、数学に関しても、グノの課題や宿題に取り組むだけで、特別なことは他に何もしていないのに力がつきました。

グノーブルの国語

佐伯:高1で古文を受けて、まず授業自体が楽しかったのと、1年間受けただけで古文が仕上がってしまい、受験学年で他科目に時間を割けたメリットは大きかったです。

鍛冶:僕は、高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語を受講しましたが、国語でもグノの特長である添削があります。自分の書いた解答と模範解答とを見比べても、なかなか正しいかどうかの判断は難しいのですが、添削を受ければそれがすぐに分かるし、答案の書き方も分かってきます。

提示してもらえる解答例も、参考にしやすいものだったので、自分の目標にできて勉強しやすかったです。

小森:僕も高1から、古文、現代文、東大国語と継続して受講しました。先生が楽しそうに授業をしてくださるから気づいたらこっちも楽しんでいる、というのはグノの他の科目と同じです。

それから、こっちが書けそうもない模範解答が示されるのではなくて、たとえば、本文のどこから表現を借りているのかなど、根拠をはっきり示していただけたので参考になって助かりました。

東大を志望した理由

松崎:私は、小さい頃から将来やりたいことが、まだ具体的には見えていなくて、そのため、レベルの高い大学に進学すれば人生の選択肢が広がると思って東大を志望しました。東大には2年次に進振り（進学振分け）があって、進学する学部・学科を大学入学後に決定できるのが魅力的でした。

加藤:僕も将来やりたいことが決まっていなくて、どうしようかなと考えた結果、東大を志望することになりました。進振りのある東大なら、大学に入学してから1年あまりは進路を決めなくていいわけですから、じっくり自分のやりたいことを考えられると思いました。

佐伯:小さい頃から「医者になったら？」と周りから言われている環境だったので、その気になっていました。東大受験でも迷うことなく理科Ⅲ類を志望しました。今のところ、臨床医学に進もうとは思っていますが、高校時代にはイメージすらつかめなかった研究への道も含めて、具体的な方向性は大学入学後に検討するつもりです。

小森:開成には「東大に行く」という雰囲気があって、僕自身も「東大に行くのかな」と何となく思っていました。具体的に進路を決めたのは高1のときです。

僕はもともと化学が好きなので、化学に関係があって人の役に立つ薬関係の研究をしたいと思っていました。ただ、薬学科のある大学は全国的にも多くありません。その中でもできるだけレベルの高い大学に行きたいと考えた結果、東大を志望することになりました。



加藤 修慈さん(理Ⅱ・駒場東邦)

鍛冶:駒東にも開成と同じ雰囲気があって、東大を目指すのが当然だと思って勉強していました。みんなも東大を目指していて、「切磋琢磨しようぜ!」という、いい意味でのライバル意識がありました。特にライバル意識が強い友達とは、模試などで勝負しながら、お互いに刺激し合って勉強しました。

桂:慶應はほとんどの人が内部進学で外部受験をしません。僕も内部進学を考えましたが、一般入試で慶應を受験しても合格するだろうという見込みがあったので、高1で「東大を目指してみよう」と思いました。グノに入塾したのは、その対策をしたかったからです。

東大の推薦入試に関しては、高3の夏頃に話題になっていましたし、ノーリスクで出願できることもあって受験してみました。僕の学校から東大に行こうという人が他にいなかったの、校内の選考はスムーズに通りました。

出願の際には、自分が取り組んできた活動のうちアピールできる点を示します。書類選考が通ると、二次試験として面接があって、センター試験も受験します。

僕が提出したアピール点のメインは、「第56回日本学生科学賞」の中学の部で「科学技術振興機構賞」を受賞したことです。このときは、津波発生伝播シミュレータを作成して応募しました。他にも、「情報オリンピック」で本選出場したことや「物理チャレンジ」で銅賞を受賞したこと、「セキュリティ・キャンプ」のことなども書きました。面接では、これらの活動について、ホワイトボードに漸化式を書いたりしながら説明しました。

先生とのエピソード

松崎:グノでは、初回の授業でも先生がすぐに名前を覚えてくださいます。先生方はフレンドリーで話やすく、どの先生にも親しみを感じていました。先生方が楽しそうに授業をなさるのも好きでした。先生がその科目に対しても、私たちに対しても、熱意をお持ちなんだろうと思っていました。

小森:僕も先生から、その科目が大好きなんだという気持ちを感じていました。そういう先生の話は楽しくて深いので、やっぱり引き込まれます。

先生と気軽に話ができるのもグノの特長です。数学の先生は学校の先輩でもあったので、いろいろ相談に乗ってもらったりしていました。

佐伯:前の授業を延長した後、「遅れてごめんなさい」と言いながら申し訳なさそうに走って教室に入ってくる先生もいました。前の授業でたくさん解説して疲れているはずなのに、僕たちの授業でも手を抜くことは一切なく一生懸命教えてくださって、その頑張る姿に毎回心打たれていました。

桂:確かに先生の熱心さには頭が下がる思いでしたが、先生は英文の背景について雑談を交えて話すときにも手を抜きません。僕は授業中の雑談が大好きでよく覚えています。たとえば、野鳥好きの先生が話していた、ウグイスとセンダイムシクイ、エゾムシクイ、メボソムシクイの外見の違い、なんていうどうでも良さそうな話まで覚えてしまいました。でも、そのおかげで、授業で扱った英文には特別な愛着が湧いて復習が楽しくなり、学習効果にもつながっていました。先生の熱意があったからこそ、「自分も頑張らなくちゃ!」という気持ちになれました。

鍛冶:初対面だと、とっつきにくい印象の先生もいます。でも、その先生とも、初めて質問しに行った後から仲良くなりました。それ以降は、いろいろな相談に乗っていただきましたし、フレンドリーなだけでなく、とても頼りになる先生でした。

たとえば、僕がある問題を質問しに行ったとき、「2週間前に同じ問題をやったときも、鍛冶君は同じ考え方をしていたよね」とおっしゃったんです。先生が生徒のことを本当に大切に思ってくださっているんだと、先生への信頼がさらに厚くなりました。

加藤:中にはダジャレを結構連発する先生もいます。それがほとんどウケないんですけど(笑)。一方でギャグのセンスが抜群で、超面白かった先生もいました。

結局、どちらの先生もサービス精神が旺盛だったんだと思います。ダジャレやギャグは全部、単語の知識や文法事項などにつながっていて、意味のないものはひとつ



小森 優真さん(理Ⅱ・開成)



佐伯 祐紀さん(理Ⅲ・開成)

もありませんでした。そのおかげで、根を詰めて勉強したわけでもないのに定着した事項はいくつもあります。

グノーブルのシステム

桂:グノは教室の中も外もきれいです。手洗い場には薬用ハンドソープも常備してあって、手を洗いやすかったです。僕は学校なんかに置いてある緑の液体石けんの臭いが苦手なんです（笑）。センター試験前は風邪予防で神経質になりますが、衛生用品にも配慮していたグノには安心して通えました。

小森:入り口に警備員さんがいて安心感がありました。中学受験時代も塾に警備員さんがいたので、当時を思い出して懐かしくも感じていました。

松崎:警備員さんが塾の入り口だけでなく道や交差点にもいて、夜が遅いときは本当に心強かったです。それから、雨が降った日には、受付の方が傘をたくさん持って生徒に貸していただきました。至れり尽くせりの対応にいつも感謝していました。

鍛冶:受付には振替のお願いでずいぶんお世話になりました。受付の方は僕の顔を覚えてくださっていて、嫌な顔ひとつせず、親切に対応していただきました。

佐伯:グノには、他塾では考えられない柔軟さがありました。僕も、運動会期間中には振替をしてもらいました。振替でいつもと違う授業に参加しても同じ内容を学べたので助かりました。

加藤:僕は振替どころか、もっと無理なお願いをしたことがあります。講習の申し込みを忘れていて、締め切りが過ぎた後に、「ダメだろうな」と思いつつ電話をしました。そうしたら、受付の方が「大丈夫ですよ」と快く受講を認めていただきました。とてもありがたかったのですが、やはり迷惑だと思うので、後輩にはぜひ気をつけてもらいたいと思います（笑）。

後輩へのメッセージ

小森:苦手な科目は苦手なもので仕方ないので、足を引っ張らない程度に勉強すれば大丈夫です。それよりも、自分が好きな科目や得意な科目を徹底的に勉強して、「この科目だけは絶対に負けない!」という状態を作ってください。僕の場合は「英語だけは絶対に負けない!」と信じていて、それが自信になって東大合格に結びつきました。

松崎:不安になったとしても、「絶対に自分は受かる!」と信じてポジティブに考えて勉強してください。模試などの点数が悪くても、「どうせ本番受かるからいいや!」と気にせず次に向かって頑張るようにしていました。

加藤:僕も「落ちる」とは微塵も思っていませんでした。英語のクラスが $\alpha 4$ でしたが、「絶対に合格するから、クラスは関係ない!」と前向きでしたね。「自分は受かる!」と信じているとモチベーションが上がりますし、受験当日も自信を持てます。

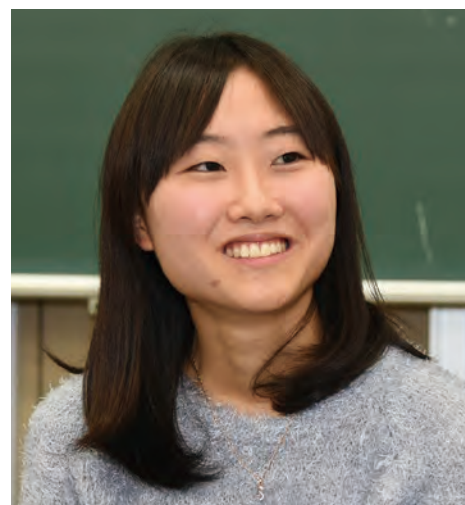
佐伯:グノの英語では受験界の常識に外れたことも言われます。たとえば、「市販の単語帳は要らない」とか。宿題も少ないですし、「本当に大丈夫か?」と最初は半信半疑でした。

でも、グノを信じると心に決めて勉強していたら、最後に結果も伴いました。グノを信じて絶対大丈夫です。

鍛冶:僕も、グノの先生や教材は本当に頼りになるので、信じるのが大切だと思います。下手に自分のプライドで自分のやり方を押し通すのではなく、先生のおっしゃったやり方を素直にまねると、順調に成績が伸びます。

数学の参考書を自分で買ったこともありますが、結局それを使わずにグノの教材をやり通しました。英語は大量で良質の教材が配られるので、それらをしっかり復習するだけで十分です。結果的に、数学も英語も成績が上がりました。

桂:僕の通っていた高校ではこれといった受験対策をしてくれませんでしたから、とにかくグノを信じて勉強しました。僕は推薦入試で合格しましたが、一般受験しても合格を勝ち取れるだけの実力をグノで培えたと思っています。



松崎 紫音さん(理I・女子学院)